

突堤に恋人岬と名前を付け、突端に高さ4mの60cmの穴の開いたモニュメントを650万円で設置し、春分秋分の日夕日にこのモニュメントの穴にスッポリ入る光景は、全国夕日百選に選ばれた町のシンボルとして、また石板に夕日に夕日夕焼けの歌を刻んだ童謡の小路も多くの人に愛され続けています。

しかし美しさを自慢する450mの続ける大量ゴミは人海戦術で取り除くしかなく、私は毎朝5時にシーサイド公園に行き、役場に出勤前の3時間来る日も来る日も休むことなく役場を退職するまでの12年間、掃除に明け暮れました。経営の神様と呼ばれた人から、「掃除もできない奴は大口を叩いてまちづくりを語る資格がない」と言われたことへの反応でした。お陰様にて国土交通省の観光カリスマ百選にも選ばれました。

シーサイド公園の管理運営を担う第三セクター「有限会社シーサイドふたみ」を、町と町内産業7団体の出資を得て2000万円の資本金で設立しました。黒字経営を目指すため漁協女性部がじゃこ天の店を起業して名物になったり、夕焼けソフトクリームや夕・日・日（ゆうひーひー）コーヒーなどのアイディア商品のお陰で、私が担当していた12年間黒字経営が続き、第三セクターに出資してもらった7団体に毎年5%の配当をするなど、年間55万人の集客を誇る施設として県内道の駅ではトップレベルの運営を行いました。25年目を迎えた一昨年、塩害による老朽化に対応するため



シーサイド公園の夕日

リニューアル工事が行われ、運営も管理委託も入札で別の業者に替わり、第三セクターは解散となりました。

③住民総参加のオンリーワンづくり

私たちの町は住民自らが「なんちゃない」と認める通り、取り立てた観光資源や有名人が出た訳でもなく、殊更な特徴のある町ではありません。しかし地域づくりをするにあたって理想の町を目指すために「アメニティ計画」を立てました。その計画は今でいう景観に配慮したまちづくりです。日本中どこにでも見られる夕日や花、水辺といった豊かな自然に目を向ければ、「ないものはない」という開き直りができるのです。つまり「ないものはない」には、ないものはないのだから殊更にないものを求めるなという戒めと、その気になって見ればないものはないくらい沢山の地域資源があることに気づくのです。日本国中どこにでもあって地域資源にはなり得ないはずの夕日がありました。また国道整備を急ぐ余りに海岸を埋め立てて消えかけた水辺の一部を復活すれば、アメニティ豊かなシーサイド公園ができるのです。さらに国道と海岸線、それにJR予讃線海岸周りが16キロにわたってほぼ東西一直線に並んで見えるのです。さらに高度成長期に耕して天に至るみかん畑などに散布した農薬で絶滅したかに思われたホテルが多くの人の手によって復活したのです。そのシンボルともいえる築100年を超える愛媛県内の現役校舎で一番古い木造校舎の翠小学校の校庭では毎年6月の第1土曜日に「ほたる祭り」が開かれ、3000人も人が集まり、夜空に飛ばすメッセージ風船はまるでメルヘンの世界ようです。ちなみに最少15人だった翠小学校は移住促進や校区外通学も可能になって、今では児童数が28人に増えている珍しい学校です。

アメニティ計画の目標を①楽しい、②新しい、③美しいの3点に置き、住民総ぐるみでまちづくりに取り組みました。国道沿線の美化はまず菜の花づくりから始まりました。町を巡回して町が汚いことに気がついたエプロン会議が、国道と